2023年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2024/10/4

団体名	NPO法人生態教育センター	活動タイトル	黒桂河内川洞窟コウモリ調査と保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり

活動対象地域における生物多様性の保全に関する現状と課題

山梨県早川町は南アルプスユネスコエコパーク登録地であり、人と自然が共生するモデル地区である。
その町にある南アルプス邑野鳥公園北部を流れる黒桂河内川両岸の人工洞穴には、2014年～2016年に専門家が実施した調査で、環境省、山梨県ともに絶滅危惧Ⅱ類（VU)ノレンコウモリや山梨県準絶滅危惧種（NT)テングコウモリの生息が確認されている。また、他2種のコウモリの繁殖も確認された。
その後2017年～2020年に有志のボランティアと地域の専門家が実施した調査では、山梨県準絶滅危惧種（NT)のニホンウサギコウモリや1000頭以上のコロニーを確認した。これらの調査によって、活動対象場所は、8種ものコウモリが生息や繁殖する生物多様性上非常に重要な場所であること、かつエコパーク登録地として誇るべき場所であることが判明している。
しかし、2019年10月に発生した台風で一時的に本洞穴が水没した。さらに同台風によって黒桂河内川上流部の山体が一部崩落し、土砂が川の流れをせき止めた。閉塞箇所が決壊すると流域に人的被害が想定されるとして、砂防堰堤の建設が持ち上がったが、完成した堰堤による河床上昇で洞穴の水没が想定される。
こうした現状から希少なコウモリの保全および多種のコウモリが生息する洞穴の保全が急務であると考えられる。ただ、コウモリ類は生態が不明な種が多く、保全のためには詳細な利用状況の把握が必要である。
しかし、ボランティアの活動では調査や保全を継続して行うための人材や資源が十分ではなく、また地域に活動が認知されていない状況で持続可能な活動を行う基盤が不十分という課題がある。
このことから、本調査の実施とその後の保全活動を弊団体の自主事業として持続可能なとりくみへと発展できるよう、調査と地域で生物多様性保全の情報発信・コーディネートを行える人材の育成や協働などの基盤強化を図りたいと考えた。

■活動風景

市民参加型調査の様子

調査活動報告会の様子

■活動報告 <400字程度>

①人工洞穴内におけるコウモリ相および生態調査
早川町黒桂河内両岸の人工洞穴にて、コウモリ類の生態調査および環境調査を行った。
2023年8月～2024年8月の期間中、下記の調査を行った。
・目視調査…毎月1回洞穴に入り種の同定、個体数や確認場所の記録。
内6回は捕獲を実施し、雌雄や年齢による利用実態の調査も行った。
自動撮影試行
・洞穴内の温湿度測定…データロガーという機器を洞穴内に設置し、タイマーで毎日4回自動記録した。
②コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり
コウモリ類の調査と普及活動や企画運営ができるスタッフ2名の育成を行った。
・スタッフA…調査とコーディネートができるスタッフ
・スタッフB…対象種の紹介、参加型調査運営ができるスタッフ
月1回の目視調査とあわせて市民参加型の調査の企画運営、SNSを使った情報発信、調査活動報告のニュースレター作成を行った。調査には外部からコウモリ類の専門家を招き、スタッフBが指導を受ける機会を設けた。
2024年7月には、地域への情報共有を目的として、調査活動の報告会を開催した。この報告会は協働団体の山翡翠クラブと共催で実施した。

■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)

①人工洞穴内におけるコウモリのコウモリ相および生態調査
洞穴の利用種とその動態の一端が判明した。特に環境省RL絶滅危惧Ⅱ類の生息と山梨県RDB記載種の出産哺育コロニーが確認された。また同所的に複数種のコウモリの生息が確認された。この結果は本洞穴の内部環境が多様であり、それ故に多くのコウモリに良い生息環境を提供しているものと推察できる。そのため本洞穴の保全の重要性がより強固になったと思われる。

②コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり
スタッフ2名を目標通り育成することができた。これまではスタッフBの1名がこの事業に携わっており、外部の専門家の補助なしでは調査を行えない状態であったが、専門家の指導によりこれまで在籍していたスタッフBがスタッフAに育成され調査が自走可能となった。また、新しいスタッフを迎え育成したことで、Bの技能を持ったスタッフが2名体制になり業務の分担や脱属人化を叶えることができた。

■事業を通じて得られたノウハウ

コウモリの調査手法
・踏査：探し方、種の同定方法など
・標識調査：捕獲方法、計測方法、標識方法など
・データ解析方法：解析の視点など

市民参加型調査の運営方法
・専門的な調査方法を一般化して参加者へ伝える方法
・グループコントロールの手法

■望ましい社会状況を達成するための課題

②コウモリ保全活動の持続化にむけた普及啓発活動の基盤づくり
・地域の関心が低い
貴重なコウモリが生息していることや生息地の現状について、地域では話題になっておらず関心もない状況である。地域と連携して、普及啓発していく必要がある。
・財政基盤がぜい弱
本活動はボランティアで実施している活動で、活動を継続していくための基盤が不十分である。調査で明らかになった資源をもとに有料の環境学習プログラムの実施などを行い、活動の収益化を図る必要がある。

■活動成果のアピールポイント（自由記入）

この1年間の活動を通じて	・洞穴を利用するコウモリの種と動態を明らかにする ・コウモリの利用する洞穴内の環境を明らかにする ・活動を行える現地スタッフの育成によりスタッフ1名増員 ・地域団体や関心のある市民への活動の周知	を達成しました。

■受益者の具体的な変化（自由記入）

・報告会に来場していた、これまで市民参加型の調査に参加したことがない参加者から来年度の調査に参加したいという声があった。